

京都大学の歴史

各キャンパスの
成り立ちとともに

本学は、1897年の創設以来築いてきた自由の学風のもと、日本を代表する総合大学として質の高い高等教育と先端学術研究を推進し、国内外から高い評価を獲得してきました。今回は自由の学風とともに発展してきた本学の歴史を、各キャンパスの成り立ちとともに振り返ります。



吉田キャンパス航空写真(1930年頃)※



宇治分校構内(1956年頃)※



宇治キャンパス航空写真※



正門、理工科大学本館(1897年頃)※



正門、時計台(1925年)※



医科大学附属医院(1917年頃)※



農学部本館(1927年頃)※

吉田キャンパス

北部構内 本部・西部構内 医学部構内 薬学部構内 病院構内

1897年、第三高等学校跡地に日本で2番目の大学として京都帝国大学が創立されました。当時正門前には理工科大学本館があり、第三高等学校本館をそのまま使用していました。後に焼失し、1925年には時計台(現時計台記念館)が建てられました。1899年には医科大学(後の医学部)、並びに附属医院が開設されました。当初は医科大学のみ大阪に置く案が有力でしたが、京都側の誘致運動により、現在の位置に設置されることになりました。1923年には京都市からの寄附金などによって買収した田畑・宅地を用地として、農学部が設置されました。また、1958年には京都織物会社のあった土地を取得し、現在の薬学研究科本館などが建てられました。

宇治キャンパス

1947年、木材研究所が現宇治キャンパスの地で研究活動を開始しており、新制大学発足を機に1950年京都大学宇治分校を開校しました。一般教養課程の一部を行っていましたが、1961年には吉田に統合され、宇治分校は廃止されました。同年には防災研究所等の一部が宇治キャンパスの利用を開始し、1966年から1969年にかけて五つの研究所（化学研究所、工学研究所、木材研究所、食糧科学研究所、防災研究所）等が移転してきました。その後いくつかの改組・再編を経て現在に至っています。



Aクラスター総合研究棟



桂キャンパス航空写真(2013年)

桂キャンパス

1980年代、吉田、宇治に続く新キャンパスの必要性が検討されはじめ、1999年、桂・御陵坂地区（京都市西京区）に新キャンパスを求めることが決定されました。その後土地取得・キャンパス整備が行なわれ、2003年から工学研究科が順次移転を開始し、現在では工学研究科の機能の大半が桂キャンパスに移転しています。



第三高等学校正門(1897年頃)※



教養部A号館、教養部正門(1967年頃)※

吉田キャンパス

吉田南構内

旧制第三高等学校は1869年大阪に開講した舎密局(せいみきょく)を始まりとし、1889年京都(現在の本部構内の位置)に移転してきました。1897年に京都帝国大学設立のため、南隣である現在の吉田南構内の位置に移転しました。1949年新制京都大学発足とともに第三高等学校は本学の所轄となり、京都大学分校(後に教養部に改称)となりました。教養部は1992年に総合人間学部等に改組され、翌1993年に正式に廃止されました。



吉田キャンパス航空写真(2014年)

(※)京都大学大学文書館所蔵。写真の撮影年については推定のもも含まれます。